

井戸から現れた愛らしい魚形水滴

水口町貴生川に位置する貴生川遺跡では、宅地造成工事に伴う発掘調査が行われ、戦国時代の城館跡が確認されました。城館跡は土壘と堀によつて方形に区画された構造をもち、甲賀武士が活躍した時代の城の姿を今に伝えています。

城館内部からは石組みの井戸が見つかり、その井戸を埋め戻した土の中から、瀬戸美濃焼の「魚形水滴」が出土しました。

この水滴は17世紀初頭に作られたもので、淡い緑色が特徴の御深井釉が施されています。水滴とは、毛筆で文字を書く際に硯へ注ぐ水を入れておくための小さな容器で、文房具の一種です。今回見つかった水滴は魚の姿をかたどり、丸い眼やふくらとした輪郭がとてかわいらしい形態をしています。

うろこは半裁した竹管状の工具で刺して表現し、眼は円形の浮文、ひれは沈線で丁寧に描き出されています。また、口の部分と、背びれと尾びれの中間部には小さな孔が開けられ、この孔を指で押さえたり離したりすることで、一滴ずつ水を落とし、量を調節できる仕組みになっています。

この水滴が井戸の中に入っていた理由は定かではありません。井戸を廃棄する際のまじないとして意図的に

水滴が埋められたのか、あるいは井戸を埋めるときに偶然入ってしまったのか。いずれにせよ、戦国の世を生きた甲賀の人々の暮らしや祈りを想像させる貴重な手がかりです。

出土した魚形水滴は、水口城資料館の2階で展示しています。戦国時代の甲賀の歴史を物語る小さな文化財として、ぜひ実物をご覧ください。



▲魚形水滴

水口城資料館

所在地 水口町本丸4番80号

開館時間 10時～17時

休館日 月曜日、火曜日、12月29日～1月3日

入館料 200円
水口歴史民俗資料館との共通券 300円

下記の方は無料です。

- ・市内に在住、在勤または在学、18歳未満及び高校生
- ・障がい者など本人と同伴者1名

問 歴史文化財課 埋蔵文化財係 ☎ 69-2251 ☎ 69-2293

どうする？ わが家のこれから

空き家にしないためのヒント

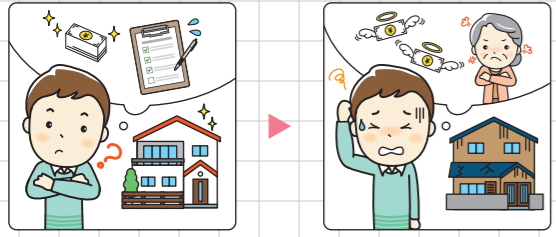


「空き家」は どうして増えるの？

よくある事例

実家を相続したAさん。
知人から「今なら買うよ」と声がかかりましたが、「まだキレイだし後でいいか」「もっと高く売れるかも」「手続きが面倒…」と考え、ひとまず保留に。
ところが、空き家になった家は想像以上に早く劣化。買い手はつかず、近隣から苦情も…。解体には多額の費用がかかり、結局そのまま放置に。

こうして「行き場のない空き家」が生まれます。



覚えておきたいポイント

- ✓ 人が住まない家は、水回り等から急速に傷みます。
- ✓ キレイなうちは「売る・貸す」が可能。傷むほど選択肢は減ります。
- ✓ 放置すると苦情や管理負担が増え、解体が必要になることも。

「早めの判断・行動」が大切です！

空き家に関する困り事があれば、気軽に住宅建築課までご相談ください。

問合せフォームはこちら

問 住宅建築課 空家対策係 ☎ 69-2214 ☎ 63-4601



地域共生社会の芽吹き

20年後の社会は、地域における支え合いの基盤であった地縁・血縁・社縁といった繋がりが弱くなると言われています。このコラムではそんな未来を見据え、地域の困りごとを住民主体で受け止めていく「芽吹き」とも言える活動を紹介いたします。

みんなで楽しむ「つながるサロン」～信楽学区まちづくり協議会～

信楽学区まちづくり協議会では、月に3回、誰でも気軽に参加できるサロンを開催しています。

活動のきっかけ

老人クラブの解散や近隣関係の希薄化により、高齢者をはじめ地域住民の交流機会が減少し、居場所づくりが課題となっていました。そこで、地域で安心していきいきと暮らし続けるため、人と人とのつながりを深め、顔見知りを増やす場として「つながるサロン」が立ち上げられました。

未来につながる活動

「つながるサロン」は、主催者と参加者を分けるのではなく、誰もが運営者であり参加者でもある形で運営されています。これまで、担い手不足や負担の偏り、参加者の伸び悩みといった課題がありましたが、主旨に賛同した人々が「みんなが主役」をモットーに、活動内容の企画から運営まで関わる仕組みとしています。茶話会や生涯学習プログラムなどを通じて、楽しみながら参加できる地域の居場所・社会参加の場として定着することをめざしています。



▲サロンに集まる参加者



▲サロンの様子

問 地域共生社会推進課 地域共生社会推進係 ☎ 69-2155 ☎ 63-4085
市民活動推進課 市民活動推進係 ☎ 69-2218 ☎ 63-4085